

令和元年8月27日（火曜日）

議会活性化特別委員会会議録

## 議会活性化特別委員会会議録

---

令和元年8月27日（火曜日）

---

出席議員（1名）

議長 三浦清人君

---

出席委員（15名）

委員長	星 喜美男君	
副委員長	後藤伸太郎君	
委員	須藤清孝君	倉橋誠司君
	佐藤雄一君	千葉伸孝君
	佐藤正明君	及川幸子君
	村岡賢一君	今野雄紀君
	高橋兼次君	菅原辰雄君
	山内孝樹君	後藤清喜君
	山内昇一君	

---

欠席委員（なし）

---

事務局職員出席者

事務局長	三浦 浩
主幹兼総務係長 兼議事調査係長	小野 寛和

午後2時10分 開会

○委員長（星 喜美男君） それでは、午前中の涌谷町まで遠征しての調査、大変御苦労さまでした。

引き続き、会議を行いますのでどうぞよろしくお願いします。

これまで通年議会についていろいろ調査を行ってまいりましたが、今後についてどのようにしたほうがいいと思いますか。皆さんのご意見を伺いたいと思います。ありませんか。後藤委員。

○後藤伸太郎委員 議会としてはこの任期になってからは恐らく初めて検討調査だったと思います。きょう結論というわけにもいかないでしょうし、早い時期にということでもないのかなと。そのメリット・デメリット、さまざまあると思いますし、それは受け手によって考え方が違うところもあると思いますけれども、さらに調査なり検討していく時間が必要かなと思いますので、引き続き検討していくという課題として議会活性化特別委員会の中で調査していくということがよろしいんじゃないかなと思います。

○委員長（星 喜美男君） ほかにございますか。

それでは、ないようありますので、今後も引き続き調査研究をしていくということでよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

それでは、そのように進めていきますのでよろしくお願いします。

次に、（2）番の議員定数についてをお諮りいたしたいと思います。

これまで2度ほど会議を開いておりますが、どのように進めたらよいか皆さんのご意見を伺いたいと思います。後藤委員。

○後藤伸太郎委員 定数についてですけれども、一つ確認といいますか議会活性化特別委員会としては、まず定数は削減するという方向で議論をしていこう。その期限は今回の任期が2年になる11月の、たしか初旬だったと思いますけれども、その時点までに結論を出すという動きは全員の確認事項だと思うんですけども、それでよろしいですよね。

○委員長（星 喜美男君） はい。

○後藤伸太郎委員 であれば、あと9月、10月、2カ月の間で何人減らすんだという話を結論まで持っていくという話だと思うんですが、議員個人個人それぞれお考えもあるでしょうし、それは最終的にこの日に結論を出しましょうという期日を決めて、その場で全員で一人ずつといいますかそれぞの、ない人は、発言したくないという人がいれば別にしなくてもいいと思うんですけども、それぞれの所見を述べて結論まで持っていくということが当然必要

だと思いますので、そういう回をまず設けるということだと思うんですけれども、私は個人的にはというかこの場で検討していただきたいと思っているのは議員定数を削減するという話が出たそもそもの一番大きい理由は、私は財政難でもなく一番は町民の皆さんとの声だと思うんです。議会活動がなかなか見えてこない、議員の皆さん方が何をやっているのかよくわからない、さらにはそのなり手がない、前回の選挙は無投票でなったとこういう議会で今のが16という定数が本当に正しいんですかというところが町民の疑問として出てきたところが一番大きいと思いますので、2ヶ月しかありませんけれども、私は町民の皆さんとの声をもう一度といいますかさらに深く聞いていく場を委員会として1回は設置したほうがいいのではないかと思っています。個人的には意見交換会だったりとか日々のお茶飲み話の中でそういう話になるということは私も実際やっていますし、そういう活動は皆さんされていると思うんですけれども、公式には何もそういった場が、1年前の住民と議会との懇談会以来は行われていませんので、日程的には難しい部分もあると思うんですけれども、議会として町民の皆さんとの声を聞きに来ました、さらにはなぜ減らすのかということをこちら側がちゃんと説明できないといけないと思うんです。結論が出て、例えば2減だったら2人減らします、何で2人減らしたの、2人減らすことによってどういうことがあるのという話は決まったときはちゃんと議会として説明ができないといけないと思いますので、その説明する、聞くだけではなくこちらもちゃんとこういう理由があってこういう検討を今していますという説明をする機会も同時に必要なかなと思っていますので、そこをひとつ実現できるかどうかは別としてやっていただきたいという要望として私はこの場で申し上げたいと思います。以上です。

○委員長（星 喜美男君） ほかにございますか。ない。

ないというのもちょっと意外ですが、町民の声を聞いたほうがよいのではないかということをございますので、一度住民懇談会をして完全に議員定数についてということでテーマを絞り込んだ中での議員懇談会を行って……はい。

○今野雄紀委員 さっき、住民の声を聞くということで懇談会のようなものを聞くという発言あったんですけども、実際普通というか普段の議員懇談会でも出席の方が思わしく伸びていないというそういう状況の中で、果たして議員も住民の代表なんでしょうけれども、集まつた方の意見というか考えが住民の総意なのかというそういうところも私不安に思えますので、もしそういった住民の声を聞くというんだったら住民投票ならそういったことではなく、例えば一生懸命取り組んでいる議会広報のほうででもそういったアンケートではなく、何か意

見を募集するようなそういう住民への問い合わせも必要ではないかと思うんですけども、いかがなものでしょうか。

○委員長（星 喜美男君） なんで、さっきほかにないですかというときに言わないの。

はつきり言って、懇談会であろうが今言ったあれであろうが、住民の総意ということはないですから、議員としてそういった声を一つの参考意見として自分でと判断をするというのが基本だと思います。

そのような発言もありますので、さらに皆さんから意見を伺いたいと思います。千葉委員。

○千葉伸孝委員 削減ということに関しては、今起こっていること、今初めて起こっていることではなく、皆さんの頭の中にも議員定数の削減というのは十分に考えられていることだと私は思うんです。ですから、とりあえず今決定ではなくおののが思う議員定数とかその定数の数の考え方を述べるぐらいはいいと思うんです。最終的な決定は今後だと思うので、できればことし中というか、今年度中にはある程度議員でまとめなければならないと思うので、ここで皆さんのが発言できるんだったらまだ思案中の方もおられると思いますけれども、ある程度自分の考えがまとまっている方には人数とかその理由、そしてまだの方はまだという形で一回全員に問いかけていいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○委員長（星 喜美男君） 非常に前進したご意見もいただきましたので、そのことについて、皆さん、ご意見がありましたら。今、千葉委員の発言に対しての。

○高橋兼次委員 数というかさっきからの関連というか、さっき議長が言ったように委員長のほうから当初資料を提出してもらって、それでおのので考えて、そして一堂に会して数を決める、そういうことで進んできたわけですから、ある程度というよりはほぼほぼの方向に絞られていると思うんです。私はそう思います。だから、それをまた住民の意見を聞くことは何も全然悪いことではないんだけども、例えば住民の意見を聞いてこの前のように住民の意見を尊重するということになった場合に、なして変えるのや、このままでいいんでないかという声が多かったら削減にならないと思いますよ。そういうことも踏まえながら十分恐らく勉強して頭の中にあると思うから、当初予定した10月なら10月、11月なら11月に、さらにまた考えてもらってそのときに一堂に会して理由をつけ加えてもいいし加えなくてもいいし、数を決定するとそういう運びにしたほうがよろしいのではないですか。

○委員長（星 喜美男君） それは今やるということですか。次回にね。今後ですね。この次ですね。

それでは、いろいろな意見が出ましたが、さっき議長言われたようにこれまで何回も住民

の皆さんだったり支持者の声をぜひ聞いてほしいということもこれまで話してきておりますし、多分皆さんの頭の中では一定の整理がついているものと思いますので、今ここで急に発表してもらうというのも何ですので、次回、ちょっと時期はいつになるかわかりませんが、そう遅くない時期に次回の開催をいたしまして、そこで一人一人の意見を述べてもらいたいと思います。そうした中でまとめていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○後藤伸太郎委員 お一人お一人の話を伺いして、そこで決めるということですか。そこまでいくかどうかはそのときの判断。済みません。今決定的なことは言えないと思うんですけれども、要は。

○委員長（星 喜美男君） 多分、もう一つ決めておきたいのは、多分いろいろな人数が出てくると思うんですけども、どうやって、その決め方です。

○後藤伸太郎委員 そうですよね。全員がぴったり同じ数字で、16人同じ数字言えばそれで決まるんでしょうけれども、ばらつきは当然あると思うので。

○議長（三浦清人君） 例えば、15人なら15人、14人、13人とあるわけですね、おのれの。一番多い数字に決定するとか、その決め方、要は。少ない数字を決めるのか。それをきちんと決め方を皆さん、どのように決めるかということも皆さんに納得してもらって決めておいておかないと。それから、一人一人が発言すると俺はとても語られないや、紙に書くのならいいやという人も中にはいるかと思う。だから、決め方をどうするかということも検討課題だと思います。

○委員長（星 喜美男君） その決め方について意見を伺いたいと思います。後藤委員。

○後藤伸太郎委員 先ほどその進め方というお話をしたので、私は私なりのお話をさせていただきましたが、それは必要ないというか委員会としてはやらないということだと思うんですけども、ではどう決めるかということですよね。今議長のおっしゃった多い少ないというのは、15という数字を多いとみなすのか、それから全員の中で例えば8人が12と言った、その多いということでいいんですかね。14と言った人が3人しかいなかつた、なので要は多数決で決めるということだったのかなと思うんですけども、そうではないんですね。そういうですね。

もちろん、どうしても決まらないことというのは最終的には議会の原則からいければ多数決ということで致し方なしだと思う、全会一致ということはなかなか難しいとは思うんですけども、そこに至るまでの議論をすべきだろう。こういう理由でこの人数が出たんだという話をお互に言い合ってというか説明して、それについてのメリット・デメリットを議会のテ

ーブルの上に上げるということですね。12にしたらこういうメリット・デメリットがある、14だったらこういうメリット・デメリットがあるということをお互い比較検討して最終的に議会としてこの選択で行きましょうということを決めなければならないと思いますので、少なくとも2回はやる必要があると思うんです。テーブルに上げる作業をする、こういう理由でこの人数が適当だと思いますという意見をまずそろえ、それの中で私はこの案に賛成、A案に賛成、B案に賛成みたいなことで多数決をして、決まったことには後から俺は反対したんだとか言わないという全会一致で持っていくために最終的には多数決ということになるんだと思うんですけども、その2段階が必要だと思います。

その1段階目のときに、先ほど涌谷に行ったときもちょっとありました、議員間討議という自由討議の時間をしっかりとつくって、自分の意見を言うだけではなく違う意見の方に対してもお互いに感情的になるわけではなく意見としてぶつけ合う、そこで磨き上げていくという作業が私はぜひ必要なのではないかと思いますので、その2点です。2段階にするということと、議員間討議が必要なのではないかということを申し上げたいと思うんですけども、いかがでしょう。

○委員長（星 喜美男君）ほかにございますか。

流れとしては、お一人お一人にその説明と定数の数を出してもらうという作業だと思う。それが説明という、今後藤委員が言った説明ということになろうかと思いますし、それで多数の定数に対して2つ選んだほうがいいのかな。

○議長（三浦清人君）旧歌津のことなんだけれども、議員報酬において町民は議員の報酬高い高いと常に言っている、当時。それで、上げる議案が出た、そうしたらどうせ可決になるんだ、見通しが。可決になる。けれども、町民からの受けをねらって反対に回った方もいた。後でわかったなんだけれども、何であんた反対したの。どうせ通るんだもの。だから、パフォーマンスはやめてもらいたいと思うんです。自分の言った数字がどうせ通らないだろう、けれども町民からの受けがよくなるのではないかというようなそういう考え方だけはね。議員定数と話出したなんだけれども、報酬の関係も後で委員長からも話すかと思っていたなんだけれども、報酬のアップをどうするかということも皆さんに検討してもらいたいと思っておりました。

○委員長（星 喜美男君）それは前に報酬まで触れていくということに皆さん合意はしていました。まずは定数を決めて、次に報酬に入る。

○議長（三浦清人君）それも、そのときにでもいいから大体考えを持って出してもらいたいと

思います。

○委員長（星 喜美男君） 高橋委員。

○高橋兼次委員 最終的に数で決めることになるんだけれども今語った多い定数、13なり14なり12なり15なり。ただ、ここで少し想定されるというか、例えば3つに5・5・6と分かれたときに6を採用するのかということです。皆さんの意見、半数にも満たない意見を取り上げるのかとなるわけだ。これは余り適切ではないのかなと思うの。だから、そういう場合は2段構えにして、例えばそうなったらもう1回絞り込んで、半数以上になるような処置というか対応すべきかなと思うんだけれども、その辺、いかがでしょうかね。

○委員長（星 喜美男君） ちょっと、今私も考えていたんですけども、多分1位、2位、2つ選んで決選投票というんですか、決選投票でもして、それは投票ででも決めたほうがいいのかなという感じがしているんですが。

○山内孝樹委員 16にした際、今委員長言ったように最終的に投票だったわけだ。そういう形にならざるを得ないと思う。

○高橋兼次委員 投票でやったほうが本当にめいめいの考えていることが出てくるのかなという考え方もありますよ。

○委員長（星 喜美男君） ですから、1位、2位をまず皆さんのお発言の中から1位、2位を出していただいて、それを投票によって、1回で全員が合意すればいいんだけれども。そういう流れがよいかと思うんですけども、いかがですか。

○今野雄紀委員 第1回目の意見を述べるときに、過半数以上の人数が出た場合はそれでも。ただ、討論みたいに自分で言ったものが……

○委員長（星 喜美男君） それが過半数以上出れば決選投票するまでもないので。

○今野雄紀委員 そこをお聞きしたかったんです。

○高橋兼次委員 一回で決まれば問題ないわけだ。だから、二段構えにするようではないかというのをそこなの。

○後藤清喜委員 最大の20人でやって、そして16人に減らしたときも最初はまず議員を定数を削減するかしないかで議論して、削減が多くてそれからどれぐらい削減するのがいいんですかと皆さんから聞いて、多分皆さん分かれるんですよ、2人とか3人とか。最後には6人削減したほうがいいという方が半数以上占めて、それで決まったと思うの。

○委員長（星 喜美男君） そうすると、あれですか。意見を出して、そしてただ投票するの。それとも1位、2位を選ばないとまた。

結果をもって、1番多いのと2番目に多いのに対しての投票をするということだね。そういうやり方が一番理想だと思いますし、今さっき出た今野委員から出たようなそれが過半数超えていればそれ以上の決定はないですから、それはそれで決まりということで。それで大丈夫ですね。後藤委員、手を挙げていたね。

○後藤伸太郎委員 どの委員が何人と言ったかがわからなくなるということですか、投票にすると。最終的には。私はそのやり方は、議長のおっしゃるパフォーマンスに走るのの抑制のためににはどちらがいいのかというのは確かにあるんですけども、大体これぐらいでいいんじゃないのみたいな、14ぐらいだよねみたいな、確固たる理由がない決定の仕方というのはよくないと思うんです。みんなで一通り意見述べて。

○委員長（星 喜美男君） だから、一通り述べる中で理由を多分言ってもらって、あとは決選投票になったときはその人の理由に対しての賛同する人があれをするという、投票したという捉え方で十分説明できるのかなと思うんですけども。（「はい、わかりました」の声あり）では、須藤委員。

○須藤清孝委員 確認だけ。意見を出し合うときは人数はそれぞれの考え、出しても出さなくても出されるので、最終的に数字、数、議席の数を集計するときは1回目から投票ということですね。この話の中で何人と言った、何人と言ったで数字で出す。

○委員長（星 喜美男君） それをその数字で一番多い数字と2番目に多い数字を決めて、それに対してのあとは決選投票。それが過半数を超えたとなればもう投票するまでもない話だから。千葉委員。

○千葉伸孝委員 きょうの涌谷での会議の中で議長も話していましたけれども、人数とかそういったことではなくその中身が必要だと思うんです。あとは報酬の件とか。だから、とりあえず皆さんで一回、私は例えば12人がいいと思います。その根拠は人口減少の中にあって、若い議員のなり手がいない。だから、自分の考えをそこで述べて、一回皆さんでもって言ってもらって、そのときに千葉の意見はダメだなどと千葉の意見いいなとなったら、その人数は変わってくると思うんです。だから、1回目の発表と討論して議論してそのときまた変わった意見が、多分出たときが最終的な集計になると私は思うんですけども、1回の発表だけでは私は心変りがする人も出てくると思うんで、その内容によって。ですから、1回、2回、3回、そういう形で踏んで討論してやっていったほうがいいのではないか、いい結果が出るのではないかと思います。

○委員長（星 喜美男君） その都度、理由づけをする。

○千葉伸孝委員 第1回目の人数の発表のときに、私はこういった考えですと。後藤委員も言つたけれども、何でこの人数なのかということをその人数を述べる後にその理由を述べる。そうしてとりあえず皆さんが1回言って、最終的な人数を何人というのを2回目で言ってもらって、そのときに集計したほうがいいのではないですか。

○委員長（星 喜美男君） ちょっと違うような気がするね。

多分、その議論の中で、段階で変更する人は変更して、誰かのを聞いてその意見に同調するという人はさっき言った数字を変更しますというのはあり得ることだろうと思います。そのあたりでやっていただきたいと思います。

それでは、一定の方向が見えてきましたので、時期をどのようにしたいと思いますか。10月中旬に行うということでいかがでしょうか。一応、大枠で10月中に行うということで委員長、副委員長、議長と検討して進めたいと思いますので、それでよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

それでは、そのように進めますのでどうぞご協力よろしくお願ひいたします。

では、議員定数についてはこれでよろしいですね。

それでは、その他として皆さんから何かございましたら。

○議長（三浦清人君） 報酬の関係で、議員定数が終わった後でという話、年内中には大体アップするか下げるかは別にどうなるか。そういったものは今年度中、ことし中に出ますかね。

○委員長（星 喜美男君） 皆さんの腹の中にはいろいろあると思いますから。（「その辺も一人ずつご意見聞くんですか」の声あり）

そこなんだね。報酬というのは非常に難しい。

○議長（三浦清人君） 一応、できればこれは議員提案ではなく執行部からの議案として出してもらいたいと思うんです。その辺を交渉というか話をして、報酬審議会にかけてもらうようですから、そんなところで時間結構段階入れますので時間がかかるわけです。だから、できれば早目に皆さんと考え出してもらったらいいなと思って。

○委員長（星 喜美男君） それも含めてだと思うんです、報酬を決めるということは。なかなか議員で決めるというのは難しいので、報酬審議会で諮って決めるという選択肢も入れた中の議員報酬のあり方というものを議論していただきたいと思うんです。はっきり言って、自分たちで決めるというのは難しいです。それだけは思っていていただきたいと思います。

○後藤清喜委員 同時に、議員定数と同時進行でさ。

○委員長（星 喜美男君） 同時に。定数と同時進行。同時進行で。

○後藤清喜委員 定数を議論して終わった。では定数、報酬ですかというよりも一緒に同じ特別委員会の中で私は議論すべきだと。

○委員長（星 喜美男君） もともと報酬は入っていなかったものだから、後で入ってきたものだから。次回の定数とあわせて議員報酬の検討も行うということでおろしいでしょうか。後藤委員。

○後藤伸太郎委員 難しいと思うんですけれども、もともと一緒に議論したほうがいいよねという話から別にしようとなったような経緯だった気がするんですけども、要は私前回申し上げたのは、報酬がこのぐらい上がるんだったら、例えば定数をこれぐらい減らしましょうとか、定数これぐらい減らすんだったらその分報酬はこれぐらい上げましょうとか、何かバランスがあると思うんです。ということになると、同時に議論を進行させようとすると定数決まっていないから報酬も決められない、もしくは報酬が決まっていないから定数も決められないという話になっていきやすいのかなと思っていたので、まずは定数を決めて、定数が例えば14なら14と決まった後、14に見合った報酬額はどれぐらいなのという決まればその次の報酬の話ができるのかなと個人的には思うので、同時、全く考えていないわけではないんですけども、同じテーブルに乗っけようすると無理が出てくるのかなという気がしているんです。

もう一つは、報酬を上げるなり下げるなりをいつからやるという話もあると思うんです。改選後の報酬の話を議論するのか、今の報酬を来月から変えましょうという話をするのかというところも私の中ではいろいろな意見があるのでないかと思っているので。

○後藤清喜委員 そういうことを交えて、一緒に同時進行しながら、多分最初に定数が削減なら削減とかわからないけれども、それを決めてそれからまた続けていく。

定数だけ最初に決めるのではなく、定数決めた後にも報酬については同時にいろいろみなさんの意見を聞いたらいい。何とか一緒に。

一緒に議論をするということで。定数だけではなく。

○高橋兼次委員 ごちゃごちゃになってしまふから。だから、わかりやすく語ると、この次にさつきの運び方とすれば定数についていろいろな意見を述べる。それに報酬のことも考えてきてこのぐらいがいいのではないかとそういうやりとりすればいいんじゃないの。そして、その後にあとを固める。理由もつけて。そして、その後に2回やるのか3回やるのかわからなければ、その後に定数は幾ら、給料は幾らと。それで結論出るのではないですか。

○委員長（星 喜美男君） それでいいと思います。

○山内孝樹委員 報酬額とかではなく、理由づけの中には定数イコール報酬を上げるという理由づけも出てくるはずだから、ただ額は別として、それ並行して進めるべきではないかと思います。

○委員長（星 喜美男君） 高橋委員。

○高橋兼次委員 定数と報酬、これは絡んでいるような意見も出ているけれども、ここは余り絡ませないほうがいいのかなと思っている。本来の報酬、本来の定数を考えていくにはこういうことを絡ませたり人口を絡ませたりしていくと本来の意味合いから外れていくのではないか。きょうあたりの向こうの話の中にもちらっと出ていたようだけれども、そこはこれからそこを皆さんで考えながらやっていったほうがいいのではないですか。

○委員長（星 喜美男君） 一つあれなんですけれども、報酬の話は後で出てきたんです。最初定数をやってきて、どうしても定数決めてからという流れなんですけれども、皆さんがそういった意見でいいんですけども、ただ、次回は定数は決定をするということで、あとは報酬は継続してまた続けて審査をしていく。そういうことでいきたいと思いますが、よろしいですか。

それでは、次回については正副委員長、議長にご一任をいただきたいと思います。よろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

大変、御苦労さんでした。

その前に、その他で。今のその他だったね。今、その他をやっていたところです。

ほかにありますか。（「なし」の声あり）

ないようありますので、事務局。その他、何かございますか。大丈夫ですか。

それでは、以上で会議を閉じたいと思います。

それでは閉会の挨拶を副委員長、お願ひします。

○副委員長（後藤伸太郎君） 午前中から通年会期と、それから議員定数についてのご議論をいただきまして大変ありがとうございます。

思い返すと、新しい議会構成になったときに結構多くの方が議会改革をしていこうというお話をいろいろな場でおっしゃっておられたというのを今思っております。ですので、非常にわかりやすい、通年議会もそうですし定数という、もしくは報酬という話も非常に町民にとってわかりやすい内容だと思いますので、十分に議論をいただいて、しっかりと議会としてこの決定をしたということに後悔がない、間違いないというところまで議論を突き詰めていければと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

本日は大変お疲れ様でした。

○委員長（星 喜美男君） どうもありがとうございます。

午後2時48分 閉会